

事務事業名		志布志港振興事業		担当課		港湾商工課		(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度			
				担当係	みなと振興係		活動指標 (実施状況)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
まちづくりアラン (基本目標)	振興計画	1	<都市基盤>「郷と郷」「人と人」「物と物」のつながりがあるまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	国内外船会社・船社代理店訪問件数(実)	社	15	15	15	15	15	
(個別目標)	計画体系	1	交流と物流を支える基盤が充実するまち	主な費目	負担金、補助及び交付金					イ	荷主等企業訪問件数(実)	社	8	8	10	10	10	10
(施策)	体系	1	志布志港の整備・機能充実	対象	志布志港に寄港及び寄港を検討している国内外船社 志布志港を利用及び検討している荷主・企業					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
(基本目標)	総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする		事業期間	S62 年度～ 年度 ( 34 年間)					ア	コンテナ貨物取扱量(暦年)	TEU	110,000	115,000	115,000	115,000	117,000
(施策)	戦略	4	志布志港輸出拡大プロジェクト	イ		志布志港貨物取扱量(暦年)	万トン	1,150	1,150	960	960	960	970					
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価							
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円						有効性 評価	国際バルク戦略港湾の整備や国際コンテナターミナルの岸壁延伸部の供用により、港湾機能の強化が図られ、海上輸送費の削減や国際競争力の強化が期待される。本事業により、志布志港の利用促進を図ることで、関連事業所の業務拡大及び雇用拡大へとつながり、南九州地域の物流拠点として地域経済の発展に寄与できる。志布志港のポートセールス活動は、志布志港振興協議会と志布志港ポートセールス推進協議会と連携して実施しており、事業の廃止は、志布志港のPRや整備促進に影響を及ぼすことから、利用促進に困難が生じると考えられる。								
	財源内訳	その他特定財源	千円															
	一般財源	千円	3,800	2,852	2,900	3,800	3,800	3,800										
	事業費計 (A)	千円	3,800	2,852	2,900	3,800	3,800	3,800										
	人件費	所要人員 (年間)	人	0.650	0.650	0.650	0.650	0.650								0.650		
	人件費概算 (B)	千円	3,640	3,640	3,640	3,640	3,640	3,640										
	(A) + (B)	千円	7,440	6,492	6,540	7,440	7,440	7,440										
(2) 事業概要																		
事業目的	志布志港への貨物の集積及び海上コンテナ航路等の誘致を推進し、南九州地域における国際物流拠点港としての発展を図る。																	
事業内容	志布志港の利用促進を図るため、県と合同または、市単独で国内外の船社、船社代理店、既存荷主・新規荷主等を訪問し、ポートセールス活動を実施する。 ○志布志港ポートセールス推進協議会(県)・・・負担金 ○志布志港湾振興協議会(市)・・・負担金																	
開始経緯	昭和44年に志布志港が重要港湾に指定され、その後昭和62年に開港指定を受けたことに伴い、貨物を増やすことを目的として事業が開始された。																	
実施状況	【志布志港ポートセールス推進協議会】(事務局：県) (1)志布志港ポートセミナー(11/10：大阪府 40団体91名)(2)船社・荷主訪問(大阪府及び兵庫県 株式会社シノコー 外11社) 【志布志港湾振興協議会】(事務局：市) (1)荷主・港湾関連企業等訪問 (2)志布志港のボランティア清掃の実施 (3)国へ志布志港機能強化の要望 (4)交通安全黄色い帽子の購入・配布(市内小学校・新1年生248個(R4d実績))																	
成果	志布志港ポートセミナーや各種セミナー等への参加、船社及び荷主等関係団体訪問により、志布志港のPRが図られた。 ○年間貨物取扱量R4(速報値)：10,431万トン(対前年比113.8%) ○コンテナ取扱量R4(速報値)：109,438TEU(対前年比98.8%)⇒実入りコンテナ貨物 R3(速報値)：110,686TEU ○原木輸出货量 R4：40.0万㎡(対前年比94.7%)⇒取扱量：H22年から13年連続国内第1位																	
課題	コロナからの経済活動の回復により、取扱貨物量については前年度並みの取扱量となった。なお、原木については、コロナ禍の影響により微減(R4d実績)。貨物の取扱量は、経済情勢によって大きく変化する。																	
		拡充		○ 現状維持		改善		効率化		廃止終了								
		港湾及び道路整備促進により物流機能の強化が図られ、海上輸送費の削減や国際競争力の強化に期待できることから、引き続きポートセールス活動を行っていく。																

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		貿易振興関連団体参画事業		担当課	港湾商工課				(3) 指標の推移												
				担当係	みなと振興係				活動指標 (実施状況)		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度				
				予算科目	会計	款	項	目	備考	総会・研修会への参加回数		回	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	
まちづくりア(基本目標)	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち		予	1	7	1	4		ア	回	4	4	4	4	4					
(個別目標)	5	食を中心とした特産品の販売が促進されるまち		主	負担金、補助及び交付金					イ	回	36	36	36	36	36					
(施策)	2	市内外の販路拡大と増進		対	貿易担当職員 市内の貿易を行う事業所及び検討事業所					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)								
(基本目標)	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする			事業期間		未把握	年度～	年度 (年間)	ア	人	2	2	2	2	2	2				
(施策)	4	志布志港輸出拡大プロジェクト								イ	人	8	8	8	8	8					
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価										
年間トータルコスト	財源内訳	千円							有効性評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズ</li> <li>・事業の効果</li> <li>・政策との整合性</li> <li>・事業を廃止の影響</li> <li>・類似事業との連携</li> <li>・公平性</li> </ul>											
	国県支出金	千円																			
	その他特定財源	千円																			
	一般財源	千円	1,428	1,428	1,428	1,428	1,428														
	事業費計 (A)	千円	1,428	1,428	1,428	1,428	1,428														
	所要人員 (年間)	人	0.075	0.075	0.075	0.075	0.075														
	人件費概算 (B)	千円	420	420	420	420	420														
(A) + (B)	千円	1,848	1,848	1,848	1,848	1,848															
(2) 事業概要												効率的性評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業効果向上</li> <li>・事業費削減</li> <li>・事務の効率化</li> <li>・費用対効果</li> <li>・財政負担の必要性</li> <li>・関係者との連携</li> </ul>									
事業目的	志布志港のコンテナ航路を活用した外貨貨物の利用促進のため、市内企業等が貿易上で必要とする国際規格等の情報の収集・発信及びセミナー等による輸出入に向けたスキル取得等の支援を行うことで販路拡大と南九州地域における国際物流拠点港としての発展を図る。																				
事業内容	①鹿児島県貿易協会②日本関税協会③独立行政法人日本貿易振興機構鹿児島貿易情報センター (JETRO鹿児島) へ負担金を支払う事業である。市は、各会が開催する総会・研修会への参加、及び各協会等が発行する情報誌・メールマガジン等により、貿易及び税関行政に関する情報収集・発信等を行っている。また、③には志布志市内で貿易セミナーを開催してもらい市内食品製造業者等へ食品輸出に関する研修の場を提供している。																				
開始経緯	昭和44年に志布志港が重要港湾に指定され、その後昭和62年に開港指定を受け、志布志港は関税法上、外国貿易船が出入港することを認められた港となった。そのことを生かし、志布志港の外貨貨物の増加を目的として事業が開始された。																				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各協会へ負担金を交付</li> <li>・各協会が開催する総会及び研修会等への参加</li> <li>・各協会が発行する情報誌・メールマガジンによる貿易及び税関行政に関する収集</li> <li>・貿易セミナーの開催</li> </ul>																				
成果	市内事業者が輸出に取組む当たり、貿易協会での貿易に関する個別相談やジェトロによる国外商談会及び海外コーディネーター配置等による商談支援がなされている。また、輸出貿易セミナー等を開催することで、輸出を考えている企業スキル向上につながっている。										改革改善案 今般、小口混載貨物の輸出が開始され、志布志港のPRを重ねてきたことで、市内等の事業者の輸出意欲が高まりつつある。この機運を逃さず輸出促進を図るため、各団体活動を通じての更なる志布志港のPRを行っていく。										
課題	志布志港から農産品等を輸出する場合、コンテナが主流となる。志布志港からの輸出促進に取り組む中で、航路、輸送日数の長さ、高運賃、貨物の集荷及び創貨など地方港湾の厳しい実情がある輸出促進を図るため、小口混載貨物輸出などの取組を進めていく。										拡充 ○ 現状維持 □ 改善 □ 効率化 □ 廃止終了										

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		さんふらわあ志布志航路利用促進事業		担当課		(3) 指標の推移											
				港湾商工課		みなと振興係		活動指標 (実施状況)		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度		
				担当係		みなと振興係		単位		(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
				予算科目		会計 款 項 目 備考				(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)		
まちづくりア(基本目標)	振興計画	1	<都市基盤>「郷と郷」「人と人」「物と物」のつながりがあるまち	1	7	1	4			ア	さんふらわあの乗船客数	人	178,000 82,750	178,000 97,137	164,000 122,142	164,000	164,000
(個別目標)	1	1	交流と物流を支える基盤が充実するまち	主な費目		負担金、補助及び交付金				イ	団体助成金交付人数	人	6,000 232	6,000 902	5,000 2,567	5,000	5,000
(施策)	1	1	志布志港の整備・機能充実	対象		フェリーさんふらわあさんふらわあ利用者及び市内外住民				成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)	総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする	事業期間		H18 年度～ 年度 ( 16 年間)				ア	さんふらわあの乗船客数	人	178,000 82,750	178,000 97,137	164,000 122,142	164,000	164,000
(施策)	5	5	国内貨物志布志港利用促進プロジェクト							イ	輸送台数	台	116,000 96,560	116,000 88,559	110,000 69,593	110,000	110,000
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価						
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)									
年間トータルコスト	事業費	千円							有効性評価	フェリーさんふらわあは、志布志市のシンボリック的存在となっており、また、南九州地域の国内海上輸送拠点となっている。現在、旅客等増加に向けた利用促進活動を図っていること、さんふらわあ志布志大阪航路の存続に繋がっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、乗船客数が回復していない状況下での事業廃止は、更なる経営悪化を招き志布志港からの撤退となることが考えられる。利用促進等の活動を図ることが当地域の産業経済の維持・発展に大きな影響のある航路の存続に繋がる。							
	財源内訳	千円		10,779	13,700												
	国県支出金	千円															
	その他特定財源	千円		10,779	13,700												
	一般財源	千円	14,360	7,360	7,360	22,466	22,466	22,466									
	事業費計 (A)	千円	14,360	18,139	21,060	22,466	22,466	22,466									
所要人員 (年間)	人	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	効率性評価	本事業等による利用促進への取組みや株式会社フェリーさんふらわあの企業努力により、課題であった旅客数が増加し、経営状況が改善され、新造船が就航するまでに至っている。しかしながら造船費用の償還や燃料の高騰、さらに新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況であることから、利用客の回復、増加に向けて、状況に応じた効果的な支援を県と連携し継続して行く必要がある。								
人件費概算 (B)	千円	2,240	2,240	2,240	2,240	2,240	2,240										
(A) + (B)	千円	16,600	20,379	23,300	24,706	24,706	24,706										
(2) 事業概要																	
事業目的	フェリーさんふらわあ志布志航路を存続させるため、関係団体の相互連携を図るとともに、関係団体が利用促進事業を積極的に展開する。																
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>さんふらわあ志布志航路利用促進協議会 (補助金)</li> <li>市、市内民間事業所・団体等が参画し、船舶給水料金助成、レンタカー・レンタサイクル事業等を実施し、また、船内外イベントやメディア・SNS等を活用した、さんふらわあ利用促進、本市や観光PRを行う。</li> <li>県志布志・大阪航路利用促進協議会 (負担金)</li> <li>県、市、県内民間事業所・団体等が参画し、乗用車利用対策事業、旅客利用対策事業、広報事業等を行う。</li> </ul>																
開始経緯	平成18年10月、運航会社である(株)ダイヤモンドフェリー (現在：(株)フェリーさんふらわ) より、大阪南港からの寄港地を志布志港から宮崎港へ変更する旨の申出があった。さんふらわあ志布志大阪航路は、当地域と関西地区を結ぶ唯一の航路であると同時に、人流・物流の大動脈であり、寄港地が変更されると、当地域に及ぼす経済的影響が大きいものであるため、航路存続を目的に開始した。																
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>さんふらわあ志布志航路利用促進協議会                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①団体乗船助成 ②船舶給水一部助成 ③さんふらわあネットワークレンタカー関連事業 ④レンタサイクル事業 ⑤利用促進・周知活動 ⑥広告掲載 ⑦JR志布志駅～フェリーターミナル間の往来支援事業、⑧旅行商品販売促進助成等</li> </ul> </li> <li>鹿児島県志布志・大阪航路利用促進協議会                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①乗用車利用対策事業 ②PR支援事業 ③志布志港アクセス改善事業 ④モニターツアー支援事業</li> </ul> </li> </ul>																
成果	<b>【利用実績】</b> ○旅客 : 122,142人 (2019年度164,368人 対2019年度比 74.3%) ○トラック : 69,593台 (2019年度 70,757台 対2019年度比 98.3%) ○乗用車 : 27,336台 (2019年度 32,137台 対2019年度比 85.0%)																
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍終息後の利用者回復・増加に向けた取り組み。</li> <li>宮崎カーフェリーが2022年5月と10月に新造船が就航しており、それに伴うフェリーさんふらわあの乗船客や貨物に対する影響。</li> </ul>																
		拡充		○ 現状維持		改善		効率化		廃止終了							
		さんふらわあ利用者に対する新型コロナウイルス感染症対策のもと、県、フェリーさんふらわあと旅客増加に向けた取り組みを行っていく。															

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		志布志港新若浜地区国際コンテナターミナル利用促進事業		担当課		港湾商工課		(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度		
				担当係	みなと振興係		活動指標 (実施状況)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
まちづくりア Plan (基本目標)	振興計画	1	<都市基盤>「郷と郷」「人と人」「物と物」のつながりがあるまち	予算科目	1	7	1	4	備考	ア	助成金利用事業所数(新規)	社	20	20	20	20	20
(個別目標)	計画体系	1	交流と物流を支える基盤が充実するまち	主な費目	負担金補助及び交付金					イ	助成金利用事業所数(継続)	社	80	80	80	80	80
(施策)	体系	1	志布志港の整備・機能充実	対象	新若浜地区国際コンテナターミナルを利用した輸出入の実入コンテナ貨物						成果指標 (成果・効果)	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
(基本目標)	総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする	事業期間	H22 年度～ 年度 ( 12 年間)					ア	新規利用事業所による新規貨物量	TEU	800	800	800	800	800
(施策)	戦略	4	志布志港輸出拡大プロジェクト							イ	継続貨物事業所による貨物量	TEU	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価						
年間トータルコスト	事業費	国県支出金	千円						有効性評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズ</li> <li>・事業の効果</li> <li>・政策との整合性</li> <li>・事業を廃止の影響</li> <li>・類似事業との連携</li> <li>・公平性</li> </ul> 本事業を実施することにより、志布志港の利用促進が図られ、関連事業所の業務拡大及び雇用拡大につながる。また、新若浜地区国際ターミナル2バース目の事業着手にもつながり、本地域全体の産業経済の発展に寄与できる。また、志布志港の整備・充実、市の振興計画にも掲げてあり、地域の経済・産業の振興、雇用の促進の分野において、行政が積極的に普及・支援する上で、事業推進を図るための援助が必要であると思われる。							
		その他特定財源	千円	1,000													
		一般財源	千円	40,529	44,514	43,260	48,717	49,000									49,000
		事業費計 (A)	千円	41,529	44,514	43,260	48,717	49,000									49,000
		所要人員 (年間)	人	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750									0.750
		人件費概算 (B)	千円	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200									4,200
		(A) + (B)	千円	45,729	48,714	47,460	52,917	53,200									53,200
(2) 事業概要																	
事業目的	志布志港新若浜地区国際コンテナターミナルの利用促進を図るため、コンテナ貨物の新規又は増加に対し助成を行う。また、冷凍・冷蔵コンテナ貨物の取扱量の増加を図るため、電源施設使用料の一部を助成する。																
事業内容	志布志港新若浜地区国際コンテナターミナルを発着するコンテナ船を利用し、輸出入を行うコンテナ貨物(実入り)の新規貨物及び増加貨物に対して助成金を交付する。助成金額は、1TEUあたり輸入1千円、輸出2千円としている。また、冷凍・冷蔵貨物の取扱量の増加を図るため、同施設内のリーファーコンセント使用料の1/3を助成する。																
開始経緯	平成9年度から整備が進められてきた「新若浜地区国際コンテナターミナル」が平成21年3月に供用開始された、取扱貨物の増大を図るため、志布志港コンテナターミナル会からもインセンティブに対する要望書が提出されたこともあり、その利用促進を図っていくため、補助事業を開始した。																
実施状況	(1)コンテナ助成金(新規1TEU:輸入5,000円、輸出10,000円 継続/1TEU:輸入1,000円、輸出2,000円) ・助成金申請件数 94件 (内訳:輸出35件、輸入59件) ・全体助成額: 38,999,000円 (2)冷凍・冷蔵電源施設使用料助成金 (冷凍・冷蔵電源施設使用料の1/3相当額) ・全体助成額 4,261,000円																
成果	国際コンテナターミナル利用促進事業は、事業開始から13年経過し、令和4年は、コロナ禍であったが引き続き好調なコンテナ貨物取扱量であった。 外貨コンテナ取扱量 (鹿児島県調査による速報値) 109,438TEU (うち実入りコンテナ貨物 68,916TEU、うち輸出実入りコンテナ貨物 16,696TEU)																
課題	輸出入は、経済情勢によって大きく変化する。																
		○ 拡充	現状維持	改善	効率化	廃止終了	貨物の輸出入については、燃料費高騰や2024年にはトラックドライバーの労働時間上限規制による陸上運送費の高騰していくこと及びSDGsを配慮したCo2の削減を図るため、鹿児島県並びに南九州地域の貨物については、生産地・消費地に近い貿易が可能な港(志布志港)の活用による新規利用者の増加が見込まれることから、予算の拡充が必要。										

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		輸出促進支援・志布志港PR活動事業		担当課		(3) 指標の推移														
				港湾商工課		みなと振興係		活動指標 (実施状況)		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度					
				担当係	みなと振興係	単位		(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)							
				担当係	みなと振興係	単位		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)							
まちづくりアワード (基本目標)	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち		予算科目	会計	1	7	1	4	備考		ア	補助金を支払った事業所数 (実数)	社	8	8	8	8	8	
(個別目標)	5	食を中心とした特産品の販売が促進されるまち		主な費目	負担金補助及び交付金					イ										
(施策)	2	市内外の販路拡大と増進		対象	市内の製造事業所等					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする								ア	見本市等参加製造事業所等数 (新規)	社	2	2	2	2	2	2	2	2
(施策)	4	志布志港輸出拡大プロジェクト		事業期間	H22 年度～ 年度 ( 12 年間)					イ	見本市等参加製造事業所等数 (継続)	社	6	4	4	4	4	4	4	4
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価									
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)												
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円						有効性 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズ</li> <li>・事業の効果</li> <li>・政策との整合性</li> <li>・事業を廃止の影響</li> <li>・類似事業との連携</li> <li>・公平性</li> </ul> <p>国は、農産物等の輸出促進を図っており、市の振興計画でも貿易振興を掲げている。農畜産物等の販路拡大を促進することにより、各事業所の業務拡大・雇用の促進が図られる。また、輸出の際の輸送手段として志布志港が活用されれば、志布志港の利用促進にもつながる。 海外輸出は国内取引とは違い、費用・時間・リスクが伴うため、その初期投資の軽減を図る必要がある。 現地展示会に参加することで海外ニーズや現地の反応を直接収集することができ、輸出向けの商品開発を行う事で販路拡大につながる。</p>										
		その他特定財源	千円																	
		一般財源	千円	0	0	0	2,801	5,500												5,500
		事業費計 (A)	千円	0	0	0	2,801	5,500												5,500
		所要人員 (年間)	人	0.000	0.000	0.000	0.025	0.125												0.125
		人件費概算 (B)	千円	0	0	0	140	700												700
	(A) + (B)	千円	0	0	0	2,941	6,200	6,200												
(2) 事業概要																				
事業目的	志布志港の食品輸出貨物の確保を図るため、鹿児島県内の各団体が実施する海外食品市場視察ミッションや海外食品見本市への参加の経費の一部を助成することにより、志布志市の特産品等販路拡大のための海外輸出活動を支援する。また、志布志市としても各展示会に参加し、志布志港の物流サービスや助成制度をPRし、国内外の事業者に対して志布志港の認知度を高め、更なる志布志港の利活用促進を図る。																			
事業内容	志布志港からの輸出貨物の確保及び志布志市内特産品等の販路拡大を図るため、海外食品市場視察ミッションや海外食品見本市への参加経費の一部を補助し、海外輸出活動を支援する。補助金は、市内に事業所を有し、運営に係る市の他の補助金等の交付を受けていない者で、1回の事業につき1の事業者において1人分に限り、事業費の2分の1かつ20万円以下。商品エントリーブックやインセンティブに関するパンフレットを制作し、商社等へ配布する。																			
開始経緯	海外販路拡大には、現地開催される見本市への出展や市場調査による海外バイヤーとの商談や情報収集が非常に重要であるため、本事業により機会創出を逃さないことが必要。また、国内外の商社や生産者等の事業者から志布志港の認知度（貿易港）が高いとは言えず、利用促進の課題となっていることから、国内外で開催される商談会等へ積極的に参加し、見本市参加事業者の支援と併せて志布志港のPRを行うことで利活用促進を図る必要があることから、本事業を開始した。																			
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内製造事業所等が延べ3社が海外で開催された展示会及び鑑評会に参加（令和4年度）</li> <li>・商談国：米国、ヨーロッパ</li> </ul>																			
成果	昨年度の実績では、延べ3社の事業者が展示会及び鑑評会に参加し、海外販路の拡大に繋がっている。また、海外ニーズや現地の反応を直接情報収集することが出来ており、輸出向けの商品開発などに寄与している。																			
課題	国内との商品規格や衛生基準等の違いがあり、海外のニーズを含め輸出国の基準に合致する商品への変更、開発を行う必要がある。																			
		○ 拡充		現状維持		改善		効率化		廃止終了		改革改善案 鹿児島県貿易協会、日本関税協会及びJETRO鹿児島との連携により、貿易セミナーの継続的な開催・事業の周知徹底を図る。 令和3年度より、オンラインによる商談会等に対応した支援へ事業内容を見直しており、これらの活用を積極的にPRし、輸出促進に努める。								

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		市民が親しむ港づくり推進事業		担当課	港湾商工課					(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
				担当係	みなと振興係					活動指標 (実施状況)	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
				予算科目	会計	款	項	目	備考			(実績)	(実績)	(実績)				
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画体系	1	<都市基盤>「郷と郷」「人と人」「物と物」のつながりがあるまち	予算科目	1	7	1	4		ア	管理(作業)日数	日	90	70	70	70	70	
(個別目標)	1	1	交流と物流を支える基盤が充実するまち	主な費目	委託料					イ	市民	万人	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	
(施策)	1	1	志布志港の整備・機能充実	対象	市民					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)	総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくとともに、安心して働けるようにする	事業期間	H29 年度～ 年度 ( 年間)					ア	さんふらわあの乗船客数	人	170,000	170,000	164,000	164,000	164,000	
(施策)	4	4	志布志港輸出拡大プロジェクト							イ			82,750	97,137	122,142			
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価							
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)										
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円	6,000	6,000	6,000	10,000	10,000	10,000	有効性 評価	港湾緑地(緑地公園、臨港道路)の除草等による景観を維持することで、市民に港をもっと身近に感じてもらうとともに、さんふらわあ利用客等の志布志港のイメージアップと緑地施設の有効活用が図られる。これまで、本市による除草等で苦情は減っているも無くなってはいない。港湾緑地等の除草を廃止した場合、事業実施以前の管理状態(年1回程度)に戻ることが可能性が高く、志布志港のイメージダウンにつながり、市民等からの苦情が多くなることが考えられる。							
	財源内訳	その他特定財源	千円															
	人件費	一般財源	千円	2,998	0	0	0	0	0									
	事業費計(A)	千円	8,998	6,000	6,000	10,000	10,000	10,000	10,000									
	所要人員(年間)	人	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025									
	人件費概算(B)	千円	140	140	140	140	140	140	140									
(A) + (B)		千円	9,138	6,140	6,140	10,140	10,140	10,140										
(2) 事業概要																		
事業目的	港湾緑地の景観を保つことで、市民や観光客に対して、志布志港のイメージアップを図るため、港湾緑地、臨港道路、若浜運動公園等の樹木の剪定、除草作業を実施する。																	
事業内容	港湾緑地、若浜運動公園の樹木の剪定、除草作業を市内業者へ委託実施する。また、臨港道路等一部をボランティア等により除草等を実施する。																	
開始経緯	コロナ禍からの経済活動の回復に伴い「さんふらわあ」の利用客回復やクルーズ船の寄港に伴い、利用客の増加が見込まれる。また、旅客船埠頭については、親水性のある施設として東屋やトイレなどの整備がされており、ほか港湾地区でのイベント等が多数開催されているなか、港湾緑地等の管理がいきとどいていない。																	
実施状況	○業務委託先：特定非営利活動法人志布志みどりのプロジェクト ○業務内容：志布志港湾地区内における緑地の低木剪定及び除草等を実施 ○作業日数：115日 ○作業面積：47,000㎡																	
成果	志布志港の緑地(緑地公園、臨港道路)管理(伐採)は、年間での伐採頻度が少なく、市民等から苦情を受けていたが、年間を通した除草作業等を実施し景観の維持保全に努めた結果、志布志港のイメージアップに繋がると共に市民が親しめる港へ寄与することができた。																	
課題	本市が委託を受けている港湾緑地等以外にも港湾管理者(鹿児島県)は、港湾地区内の臨港道路など管理しなければならないが、管理が行き届かず苦情が出ている。																	
				○ 拡充		現状維持		改善		効率化		廃止終了						
改革改善案		港湾管理者へ港湾地区の景観の維持管理の更なる徹底、予算確保を強く要望しつつ、今後も本市では、港湾管理者からの委託料の範囲内で維持管理を行う。不足分は、ボランティア活動で対応。また、港湾管理者へ志布志港のイメージアップを図るために港湾地区内の企業に対して自社周辺近くの除草作業等にご協力していただけるよう要望する。																

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		志布志港湾改修事業（負担金）		担当課		(3) 指標の推移									
				港湾商工課		みなと振興係		活動指標（実施状況）		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
				担当係	みなと振興係		単位		(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
				担当係	みなと振興係		単位		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
まちづくりプラン（基本目標）	振興計画	1	<都市基盤>「郷と郷」「人と人」「物と物」のつながりがあるまち	予算科目	会計	1	款	8	項	4	目	1	備考		
(個別目標)	計画体系	1	交流と物流を支える基盤が充実するまち	主な費目	負担金補助及び交付金										
(施策)	体系	1	志布志港の整備・機能充実	対象	志布志港										
(基本目標)	総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする	事業期間	S44 年度～年度（ 年間）										
(施策)	戦略	4	志布志港輸出拡大プロジェクト	事業期間	S44 年度～年度（ 年間）										
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価						
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	所管課による評価						
年間トータルコスト	事業費	千円							有効性評価	志布志港は、港湾管理者（鹿児島県）が策定した港湾計画に基づき、国及び県が主体となり整備がなされており、地域の産業経済の発展にも大きく貢献している。さらに、志布志港の整備・充実、志布志市振興計画にも掲げられており、志布志港の機能が充実することにより、志布志港の利用促進が図られる。そのことにより、物流・人流が盛んとなり、地域の産業経済の発展にも大きく貢献すると考えられる。また、志布志港整備に係る事業費は、国、県及び市で定められた負担率で支払っており、公平・公正である。					
	財源内訳	千円	304,503	221,400	220,300	231,500									
	国県支出金	千円													
	その他特定財源	千円	22	6,819	24,313	25,812	253,618	253,618							
	一般財源	千円													
	事業費計 (A)	千円	304,525	228,219	244,613	257,312	253,618	253,618							
	所要人員 (年間)	人	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025							
人件費概算 (B)	千円	140	140	140	140	140	140								
(A) + (B)	千円	304,665	228,359	244,753	257,452	253,758	253,758	効率性評価	新若浜地区が整備され、5万トン級のコンテナ船が寄港可能となり、コンテナ貨物蔵置能力も12万TEUとなった。平成30年にコンテナ貨物取扱量が10万TEUを突破して以降、着実に実績を積み上げている。今後、経済情勢や港湾、背後地整備等の影響にもよるが、ポートセールス活動等により、さらなる増加が見込まれ、そのことによって新若浜地区の第2期工事の事業化に繋がる。また、国際バルク戦略港湾としての整備が完了すれば、バラ積み貨物取扱量も増加し、志布志港周辺地域の活性化が期待できる。						
(2) 事業概要															
事業目的	国・県が実施する志布志港の港湾改修事業等について、事業費の一部を市が負担し、南九州地域の物流拠点港として整備を図る。また、港湾整備の振興を図る関連団体へ負担金を支払う。														
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>志布志港港湾施設の改修・整備事業負担金（事業主体：国・県）を支払う。</li> <li>平成29年度より国際バルク戦略港湾の整備開始。</li> <li>鹿児島県港湾協会（会長：志布志市長）、日本港湾協会への負担金を支払う。</li> </ul>														
開始経緯	昭和44年に国の重要港湾に指定されて以降、志布志港の外港地区を始めとする大規模整備が始まった。現在、志布志港の整備は、平成5年に改訂された「志布志港港湾計画」に基づき、順次整備が進められており、平成9年度から整備が進められてきた「新若浜地区国際コンテナターミナル」が、平成21年3月供用開始され、コンテナ貨物蔵置能力が、12万TEUとなった。令和4年1月には岸壁80m部が延伸供用され、港湾物流機能の強化が図れている。														
実施状況	<b>【令和4年度事業】</b> 直轄事業：(1)新若浜地区 ①国際バルク戦略港湾整備 県事業：(1)若浜地区 ①津波避難施設整備 ②防舷材取替 ③ふ頭照明（LED化） ③路面標示（進行方向カラー表示） (2)新若浜地区 ①臨港道路 舗装（改良） ②防舷材取替 ③エプロン補修 ④岸壁（-14m）改良 ⑤津波避難施設整備														
成果	港湾施設の整備及び改修により、南九州地域の物流拠点港湾として利便性の向上や機能強化が図られている。また、令和4年1月には国際コンテナターミナル岸壁延伸部（80m）が供用開始されたことで、更なるコンテナ貨物取扱量の増加することが期待される。														
課題	経済情勢等により、事業の進捗に影響が出ることが考えられる。														
									改革改善案	拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		誘客促進特別支援事業		担当課	港湾商工課					(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度						
				担当係	みなと振興係					活動指標 (実施状況)	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)						
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画体系	1	<都市基盤>「郷と郷」「人と人」「物と物」のつながりがあるまち	予算科目	会計	1	款	7	項	1	目	4	備考	ア	さんふらわあの乗船客数	人	178,000 82,750	178,000 97,137	164,000 122,142				
		(個別目標)	1	交流と物流を支える基盤が充実するまち	主な費目	負担金、補助及び交付金					イ												
		(施策)	1	志布志港の整備・機能充実	対象	フェリーさんふらわあさんふらわあ利用者及び市内外住民					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)				
		(基本目標)	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする	事業期間	R2	年度～		R4	年度 ( 2 年間)		ア	さんふらわあの乗船客数	人	178,000 82,750	178,000 97,137	164,000 122,142						
(施策)	5	国内貨物志布志港利用促進プロジェクト																					
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価												
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円	7,706	25,000	25,000			有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	フェリーさんふらわあは、志布志市のシンボリック的存在となっており、また、南九州と関西を結ぶ国内物流・人流送拠点となっている。これまで、旅客等増加に向けて利用促進活動を図っていることで志布志大阪航路の存続に繋がっている。 このような中で、コロナ禍の影響により乗船客が激減している状況下が長期間続くことにより、経営悪化を招き航路存続が危ぶまれる。運賃割引は期間限定であるが、乗船への起爆剤となり、今後の利用促進と本市産業にも寄与できる。											
		その他特定財源	千円																				
		一般財源	千円	17,294																			
		事業費計 (A)	千円	25,000	25,000	25,000	0	0	0														
		所要人員 (年間)	人																				
		人件費概算 (B)	千円	0	0	0	0	0	0														
(A) + (B)	千円	25,000	25,000	25,000	0	0	0																
(2) 事業概要		事業目的	コロナ禍によるさんふらわあ乗船客の著しい減少に伴い、感染症防止・事業継続対策及び本市のグルメ・観光・宿泊に乘船客を誘客することを目的に、運賃特別割引等を実施する。									効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	コロナ禍に対応した感染症対策に早々に取り組み、利用者が安心して乗船できるように努めている。このような状況下で、燃料が高騰し、コロナ禍の落ち着きつつあるなかでも、依然として、厳しい状況である。運賃割引は、効果が高く利用促進のきっかけとなっている。今後も、乗船客の回復に向けて、状況に応じた効果的な支援を県と連携し継続して行く必要がある。									
事業内容	感染症の状況を踏まえ、フェリーさんふらわあ乗船者に対し、期間限定の運賃割引キャンペーンを実施し、コロナ禍収束後の利用促進を図る。																						
開始経緯	新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、フェリーさんふらわあ乗船客が激減し大打撃を受け、支援の要望があった。また、本市にとって重要である志布志大阪航路の航路存続のため、利用促進を図り、本市への誘客を図ることで地域の発展につなげる必要がある。									達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢・環境の変化 ・事業期間	コロナ禍の影響により、依然として大幅な乗船客数の減少となっているが、運賃割引や利用促進に向けた支援により、乗船客の回復につながった。しかしながら、感染症の再拡大により企画・イベント等の実施もできず、大幅な回復までとはいかなかった。旅客等への感染症予防対策しっかり行い、利用促進の起爆剤としてタイミング見極め運賃割引を実施を検討したい。											
実施状況	・運賃特別割引助成 25,000,000円「なんごく (7590) 行こうよ! キャンペーン」プランで最安7,590円 (片道) に設定。 割引額 (例) : 「なんごく (7590) 行こうよ! キャンペーン。」プラン 片道 3,920円 (片道) ~6,230円 (往復) 利用客数 : 10,980名 (見込み) 期間 : 2022年10月1日~2023年1月9日																						
成果	運賃特別割引キャンペーン実施により、コロナ禍により激減していた乗船客がキャンペーン期間全体で10,980名となり、2019年度実績比 (コロナ禍以前の直近) 約74% (2022年度実績) まで回復した。									改革 改善 案	拡充	現状維持	改善	効率化	○	廃止終了							
課題	更なる感染拡大した場合の観光及び経済活動の停滞及び後退による利用客数の減少。										コロナ禍収束により本事業は終了するものとし、さんふらわあ志布志航路利用促進事業による利用促進を図っていく。												